



泌尿器疾患啓発パンフレット

医真伝心

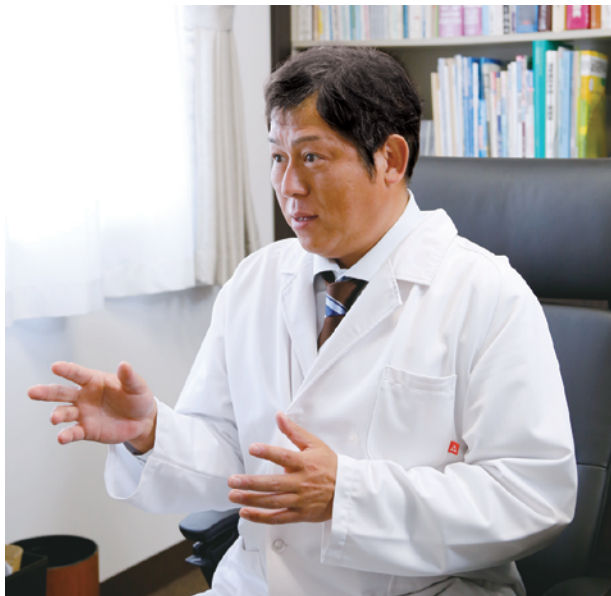
Vol.2

泌尿器がんのおはなし

高知大学医学部泌尿器科学講座 教授 井上 啓史

発行：高知大学医学部附属病院泌尿器科
特定非営利活動法人 高知医学研究・教育支援機構

泌尿器がんのおはなし



不要な物質を尿として体外に排出するなど、身体の中で重要な役割を担う泌尿器系の臓器や器官。泌尿器科で扱う臓器には、腎臓、膀胱、前立腺などが挙げられます。

近年、日本では、泌尿器のがん、特に前立腺がんに罹患する人が顕著に増えており、私たちにとって身近な病気になっています。今回、この泌尿器のがんについて、ご説明をさせていただきます。

泌尿器のがんにはどのような種類がありますか

泌尿器のがんとして主に挙げられるのは、前立腺がん、膀胱がん、腎臓がん（腎細胞がん、以下腎がん）です。日本人男性において、年間の部位別がん罹患数を見ると、前立腺がんがおよそ9万人で、年々増加

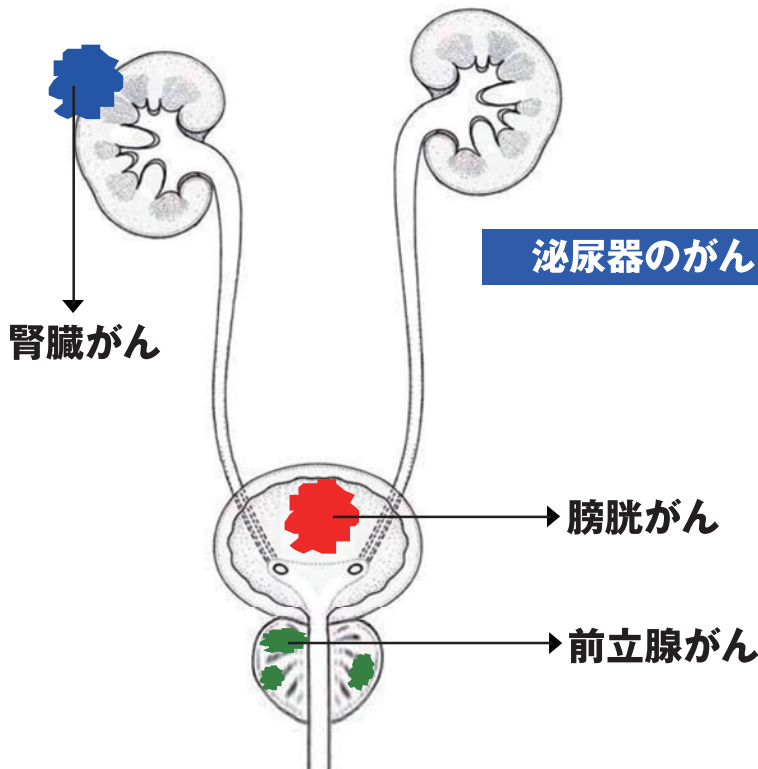
の傾向にあります。膀胱がんは、およそ2万3000人、そして腎・尿路がん（膀胱がん除く）がおよそ3万人であり、これら前立腺がん、膀胱がん、腎・尿路（膀胱除く）がんの合計は、日本人のがん罹患患者男性全体の約25%に当たります。アメリカでは約40%という数字が出ていますので、今後日本でも泌尿器のがんがますます増える予想

されます。

次に、それぞれの生命予後（5年生存率）は、前立腺がんが97、5%、膀胱がんが78、9%、腎・尿路がん（膀胱がん除く）が70、6%と、いずれも比較的高い生存率が示されています。つまり、泌尿器のがんは、早期に発見し治療を行えば完治することも大いに期待できます。

※出典：国立がん研究センター

泌尿器のがん



がん情報サービス「がん登録・統計」（人口動態統計）

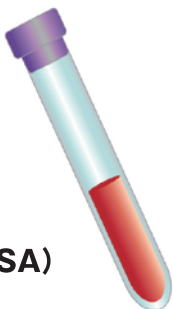
血液検査やMRIで発見できる前立腺がん

泌尿器がんの診断および治療について、それぞれ説明します。まず、前立腺がんについては、前立腺がんは男性

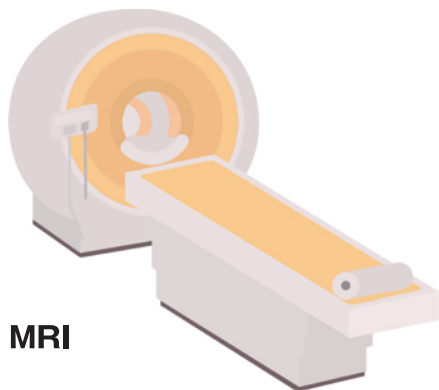
特有のがんであり、70代に多く見られる病気です。動物性脂肪に加えて、前立腺がんの家族歴がリスク要因と言われ、ご家族が前立腺がんにかかったことがある場合には高い確率で発症します。初期には自覚症状がないために自分で気付くことが難しい病気であり、早期発見にはPSA検査という血液検査が重要です。このPSA検査と

快適な生活をご一緒に目指しましょう!

前立腺がんの検査



血液検査(PSA)



MRI

は、タンパク質分解酵素の一つである前立腺特異抗原(PSA)を調べるものであり、PSA値が4以上の場合には、がんを疑います。しかし、4という数値はあくまで指標であり、がん以外の病気でも、例えば前立腺肥大症や前立腺炎などでもPSA値は高くなります。

PSA値を調べて高い数値の場合は、精密検査に進みます。以前であれば、すぐに生検(直腸または会陰部から生検専用の針を挿して前立腺組織を採取し、顕微鏡で病理診断するもの)に進んでいました。しかし、PSA値が4〜10程度の場合には、がんが見つかる確率は1〜2割程度、つまりがんでないことが多いのが現状でした。そこで、最近、有効となっているのがMRIです。まず、PSA値を調べ、高い数値の場合にはMRIを撮る。このMRIで、

選択肢が多い 前立腺がんの治療法

前立腺がんは、進行すると骨やリンパ節に転移しやすく、足や骨盤の痛み、腫れといった

がんが疑わしくない場合には、定期的にPSA値を調べるという経過観察に回ります。一方、MRIで、がんが疑わしい場合には、生検に進み、さらに生検でがんが見つかった場合には、骨シンチグラフィや陽電子放射断層撮影(PET検査)などの画像検査で、がんの浸潤や転移を詳しく調べることになりま

症状からがんが見つかる場合もあります。しかし、それはあくまでも、がんが進行している場合です。早期発見し、根治的治療を行えば、前立腺がんが死に至ることはありません。根治治療法は、ロボットを用いた手術や3種類ほどある放射線治療など選択肢が多く、年齢などに応じて医師と治療法について相談することが出来ます。また、これら

泌尿器のがんを理解し、
適切な検診を受け
病気を予防しましょう

高知大学医学部泌尿器科学講座 教授

井上啓史先生

いのうえけいじ

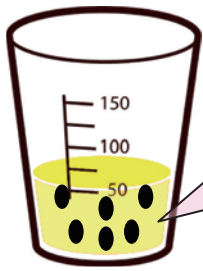
平成元年 高知医科大学医学部 卒業
平成 6年 高知医科大学大学院 卒業
平成 9年 テキサス州立大学
MDアンダーソン癌センター癌生物学科
平成28年 高知大学医学部 泌尿器科学講座 教授

いう時は我々専門医にお任せください! 安心・

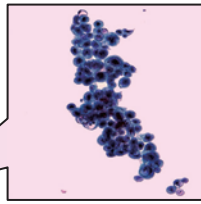
膀胱がんの検査



尿検査(血尿)



尿細胞診



がん細胞

いますから、もし前立腺がんになってしまったら、高知県で治療が完了できません。これは患者さんのみならずご家族にとっても大きなメリットだと思います。

前述の通り、前立腺がんを見つかるためのPSA検査は少量の血液で検査ができ、体への負担もありません。しかし高知県では、残念ながら住民検診に組み込まれておらず受診率が低いので、がんが進行してから病院にかかる方も少なくありません。もつと啓発活動をしなればいけないと我々も痛感しておりますし、県民の皆さんも、50歳以上の男性は年に1回、積極的にPSA検査を受けてください。また、ご家族に前立腺がんの

方がいらっしゃる場合には、通常の推奨年齢である50歳からではなく、40歳からの前立腺がん検診を推奨します。

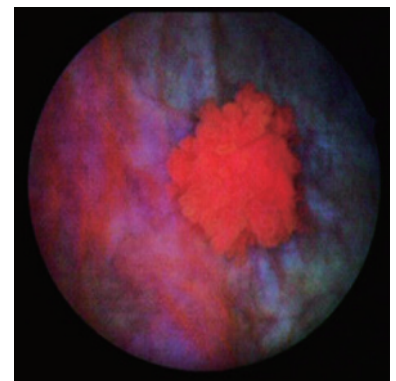
尿検査で早期発見できる膀胱がん

次に、膀胱がんについて説明します。膀胱がんは60歳以上の男性に多く見られ、尿検査で早期発見できる病気です。一番分かりやすい症状は血尿ですが、血尿には肉眼では分からないタイプのももありますから、やはり検査が必要です。ちなみに、血尿が出たからと言って膀胱がんとは断定できませんし、良性疾患の場合も多々あります。

膀胱がんに対する光線力学診断



従来の白色光観察



光線力学診断による蛍光観察

ます。いずれにせよ、もし血尿が出た場合は、すぐに病院を受診してください。

また、膀胱がんの場合の血尿に関する特徴は、色は真っ赤、痛みやかゆみはなく、一度血尿が出てもその後一旦止まる、といったことが挙げられます。血尿が止まったから、あるいは痛みがないからと放置せず検査することが重要です。

尿検査ではわずかな血尿も調べることが可能です。尿の中の赤血球、白血球などを調べるだけでなく、尿の中の細胞を顕微鏡で調べる尿細胞診というスクリーニング検査があり、疑いのある方は精密検査に進み、超音波検査や膀胱鏡検査(いわゆるカメラ)などにて、がんを見つけます。

光線力学診断で膀胱がんの再発を防止

もし膀胱がんになった場合、早期であれば内視鏡手術で腫瘍のみを切除することが可能です。しかし、膀胱がんは再発率が高いがんでもあります。膀胱を温存できる内視鏡手術の際、可視では見極めることができない腫瘍があったら、それが再発につながらないとは言いきれません。そこで高知大学医学部では、腫瘍を光らせることができる光線力学診断の開発に取り組んできました。手術中にごく小さな腫瘍まで、はっきり見えることで、腫瘍切除の精度が向上し、膀胱がんの再発防止に貢献しています。高知発のこ

光線力学診断は、2017年に保険適用となり、現在健康保険にて実施可能です。今後は、日本のみならず世界全体に広まることを期待しています。もし進行している場合には膀胱全摘除術が行われ、高知大学医学部では、前述の前立腺がんと同様、体に負担のかからないロボットによる手術が可能です。

膀胱がんは喫煙が危険因子の一つと言われ、喫煙者は非喫煙者の5倍ほどリスクが上がります。50歳以上の男性喫煙者に血尿が見られたら、膀胱がんを疑う必要があります。自身や家族の病歴、生活習慣なども鑑みてください。そして、是非尿検査を受けてください。

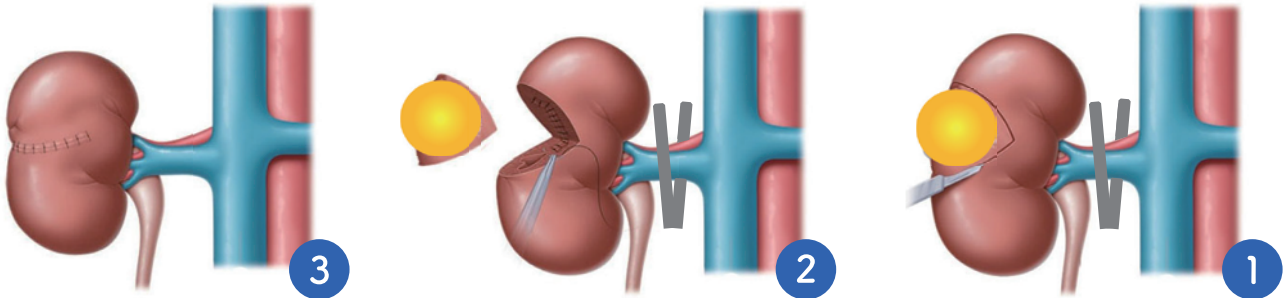
積極的に検診を受けましょう! いざと

超音波検査で 発見できる腎細胞がん

最後に、腎がんについて説明します。腎がんは早期には自覚症状がなく、腫瘍マーカーも存在しないため、血液や尿の検査では分かりません。最近では、健康診断や人間ドッグでの超音波検査やCTにて、偶然見つかる場合が増えていきます。

もし腎がんを早期に見つけることができた場合は、部分切除が主な治療法となります。腎がんの部分切除手術は難度が高いため、開腹手術を行う病院が多くありますが、高知大学医学部では、前述の前立腺がんや膀胱がんと同様、体に負担のかからないロボットによる手術が可能です。また、手術が困難な場合にも、背中に局所麻酔をして針を差し込み、腎がんを凍らしてがん細胞を破壊する凍結療法という方法も健康保険にて実施可能です。さらに最近では、抗がん剤とは異なる新しい治療薬が数多く出てきていますから、通院で治療することも選択肢の一つになりつつあります。どちらにせよ、前立腺がんや膀胱がんと同様に、早めに病気を見つけることが

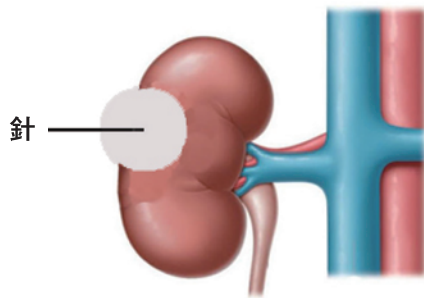
腎がんに対する腎部分切除術



何より大切です。

腎がんは、40歳以上から発症が見られる病気で、喫煙や高血圧、肥満、腎がんの家族歴などが危険因子とされています。健康診断で超音波検査を受検される際には、是非、腎臓もあわせて積極的に診てもらいましょう。

腎がんに対する凍結療法



症状が出る前に 早期発見・早期治療を

泌尿器で罹患が多い3つのがんについて説明しました。「泌尿器科」と聞くと、「痛い検査」「恥ずかしい検査」を想像されるかもしれませんが、検査は、血液

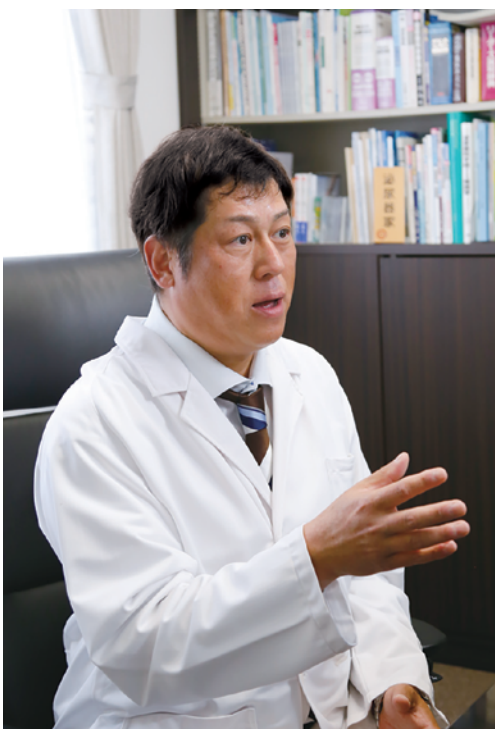
腎がんの検査



超音波検査

検査、尿検査、超音波検査と、どれも体に負担が少なく、簡単に受けられるものばかりで、検査により早期発見につながります。気軽に定期検診を受け、自覚症状が出る前に病気を早期発見してください。そして泌尿器のがんが身近な病気であるこ

とを認識し、ご自身ならびにご家族の健康管理・病気予防に役立てていただきたいと思います。多くの選択肢から健康寿命をも念頭にした最適の治療をご提案します。まずは、我々泌尿器科にご相談ください！



泌尿器がんに対するロボット支援手術



保険適用の泌尿器がん

- 前立腺がん …… 2012年4月より
- 腎臓がん …… 2016年4月より
- 膀胱がん …… 2018年4月より



〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

高知大学医学部附属病院泌尿器科

TEL.088-880-2402 FAX.088-880-2404

E-mail : urology@kochi-u.ac.jp

URL:http://www.kochi-ms.ac.jp/~hs_urol/